

保健体育科学学習指導案

研究テーマ

『友と気づきを伝え合い、動きを確かめながら運動の楽しさを味わう保健体育学習』
～視聴覚機器の活用によって、確かな動きをつくる学習のあり方～



- 1 指導者 長野県教育委員会南信教育事務所
保健体育科指導主事 有坂栄康先生
- 2 期 日 平成27年11月 5日(木)
- 3 単元名 『ホップ! ステップ! アレンジでダンシング!』(ダンス単元)
- 4 授業者 山田拓磨 教諭
- 5 授業学級 1年5組(男子15名 女子16名 合計31名)

目次

- I 研究テーマ
- II 研究テーマ設定の理由
- III 保健体育科の研究内容
 - 1 実践事例
 - 2 研究の仮説
- IV 学習指導案
 - 1 単元名
 - 2 単元設定の理由
 - 3 単元計画
 - 4 本時案
 - 5 実証の観点
 - 6 教材研究(素材の教材化)

I 研究テーマ

保健体育科研究テーマ

『友と気づきを伝え合い、動きを確かめながら運動の楽しさを味わう保健体育学習』
～視聴覚機器の活用によって、確かな動きをつくる学習のあり方～

II テーマ設定の理由

保健体育科では全校研究テーマを受けて、「友との関わり合い」を「ダンス」單元においては、規定のダンスをアレンジし、自分たちのオリジナルダンスをつくるために、班の仲間とアイデアを出し合い、楽しくリズムにノったダンスにしていくための練習をすることと考えた。

そのことから、生徒は、ダンスにおける「いかにして思想・感情のリズミカルな身体表現による美的表現をするか」という技能を習得するための取り組みをしていく。その中で、個人のリズムに合った正確な動きが班のダンスに大きく関わることに気づき、仲間と動きを合わせるための追究をしている生徒を育てたいと考えている。

体を動かすことが好きであったり、テレビをはじめとする映像情報の影響から抵抗なく踊れる生徒がいる反面、表現力が要求されるダンスに対して恥ずかしさや苦手意識を感じたり、音楽に合わせて思うように体を動かすことができずに消極的になりがちな生徒も予想される。視聴覚機器（タブレット）を活用した教師や友からの助言や、班の仲間と息の合った動きで踊ることができた場面やアレンジがうまくいった場面のよさを伝え合うことを通して、生徒個々の動きや班のダンスがぴったりとそろう、共に運動を楽しむ喜びを味わうことを期待したい。

以上のことから生徒が友と関わり合い、協力して授業にのぞみ、種目の特性にふれることのできる授業を究明しようと本研究テーマを設定した。

III 研究内容

1 友と学び合う姿から学んだこと

事例 1

友とダッシュポイントの位置を探し出し、トップスピードでのバトンパスのタイミングをつかんだことでリレーの楽しさを味わったKさん

（平成26年6月 單元名「スピードにのってバトンをつなごう」1年「リレー」の事例）

「トップスピードでバトンパスをするにはどうしたらいいのだろうか」という課題を追究してきたKさんは、学習の振り返りに以下のような記述をした。

ペア練習していたとき、最初は「ゴー」と言われても少し減速してしまったけど、練習するうちにすごくタイミングが合って、最後にやったのはもう最高でした。
最高のダッシュポイントの歩数は6.5歩だってことが見つけ出せました。

Kさんは、「ゴー」「ハイ」の声に合わせてバトンパスをしていたが、声だけでは前走者のYさんとなかなかタイミングが合わず、パスを受け取ることができなかった。そこで、ダッシュポイントを利

用してのバトンパスの練習を始めていたが、どうしても相手に遠慮してしまいスピードにのったダッシュができずにいた。班の仲間であるM君は、土に靴で引いた線のダッシュポイントでは練習している間に消えてしまったり、見えなくなってしまうという気づきを伝えた。Kさん自身も「何か目印になる物を印にしたいけど、何もないので、何か考えてみたい。」と前時の学習カードに記述していた。教師は、前時から5班が行っているバトンパスの練習内容は、声ではなくダッシュポイントの重要性に気づき始めている様子にとらえた。そこで教師は、Kさんに、ペットボトルキャップを渡し、ダッシュポイントの目印として活用することをグループに紹介し、その位置に前走者が来るのを見定めてからトップスピードでダッシュするように伝えた。

Kさんは、前走者のYさんと何度もパス練習を繰り返して、「近づきすぎて利得距離がかせげなかったね」「肘をめいっぱい伸ばしてバトンをもらえる間隔にしよう」などと、互いに気づきを伝え合いながら、ダッシュポイントの位置について歩数で確かめながら納得するまで微調整を重ねた。何度目かにYさんの伸ばした腕のバトンがKさんの伸ばした腕の手の平に吸いつくように収まった瞬間、それを見ていた班の仲間が、「今、ぴったりだったよ」とみんなで拍手して賞賛した。ふたりも互いのぴったりタイミングの合うバトンパスができるダッシュポイントを探し当てたことについて手を取り合いながら喜んだ。パスがぴったりできたことが自信につながったせいなのか、Kさんは、Yさんがダッシュポイントの目印を通過した瞬間に遠慮することなくトップスピードでダッシュするようになった。パスのタイミングがぴったりと合うことが続くようになったふたりは、さらに何度も何度もパス練習を繰り返した。



事例 2

友と条件を満たす寝技を考え、力を入れて抑えるポイントや、隙間なく密着することで相手を抑えられると分かったことで柔道の楽しさを味わったS君

(平成26年9月 単元名「正しく！強く！安全に！投げて抑えて三四郎！」1年「柔道」の事例)

「相手に逃げられない抑え込みを考えてみよう」という課題に対してS君は、T君やM君と共に積極的に追求をした。相手と概ね向き合っている・相手が概ね仰向けである・自分が束縛されていないという3つの条件を満たすオリジナルの寝技に対するアイデアが出された。仰向けの相手に馬乗りになって肩に手の平を強く押し当てて抑えたり、腕をクロスさせて首の辺りを強く圧迫したりする抑え技等をお互いにかけていながら抑えやすさや、逃げられにくさを伝え合った。

「どうしたら相手が逃げられなくなるのか」を全体で考える場面でM君が、練習の中から発見した「首と

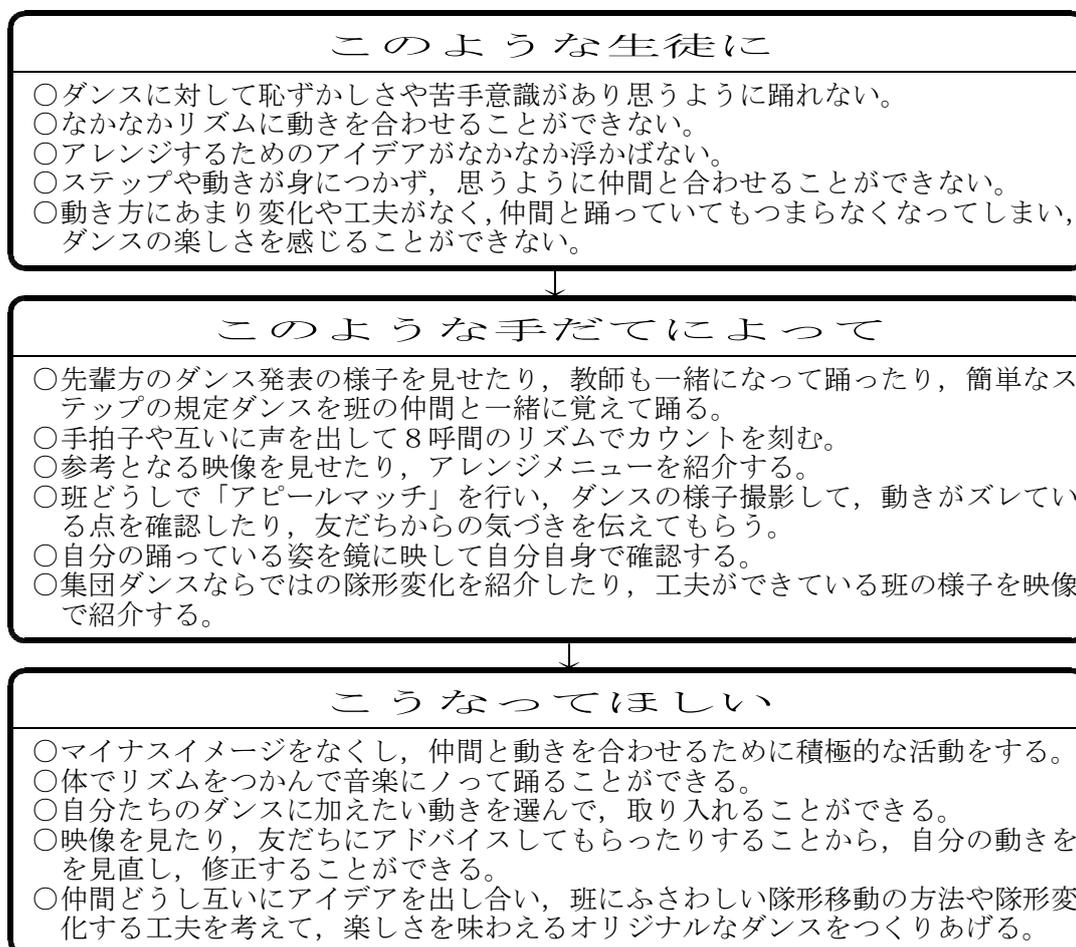


肩を固定すると動けなくなる」という気づきを発表してくれた。またS君と同じグループのT君は、相手に逃げられないために「全体重を乗っけて抑える」という気づきを発表してくれた。クラスの仲間からは「顔の向きを天井に向けるようにして、胸を相手の胸に押し当てることで密着できる」という発言も出された。その気づきを受けて、S君は自分の体重を相手にかけて抑えようとするが、相手と自分との間に隙間ができてしまいなかなかうまく抑え込めずに逃げられてしまっていた。相手と密着する体感をつかませてあげたいと考えた教師は、ブーブクッションを用いて、相手と自分の間にはさんだブーブクッションの中にある空気が、全部押し出された時が強い密着になっていることを紹介した。

S君は、顔を天井に向けるようにして相手と自分の間にある隙間をなくそうとする抑えを繰り返し、見ていたT君が抑えた体勢を確認して密着の様子を伝えた。また、他のグループでは、相手が動かないように相手の柔道着や帯をつかんでいることを見て、S君は「いいこと考えた」とつぶやき、柔道着の袖や帯をつかむことを試し、自分の抑え技を、さらに相手が逃げられない抑え込みへと変化させていった。その後行われたグループ対抗の寝技ゲームでもS君は大活躍して練習の成果を発揮することができた。

S君は、『3人グループで抑え込みの技を考えてとてもいい技ができました。それは、相手の肩を抑えつけてながら顔を上げることです。それで、他のグループと寝技のゲームをしたら僕が抑えた人は、全員逃げられずに動けなくなってしまいました。うまくいったら柔道がどんどん楽しくなってきました。なんだかとても嬉しかったです。』と振り返りを記入した。

2 研究の仮説



IV 学習指導案

単元名『ホップ! ステップ! アレンジでダンシング!』(1年ダンス:現代的なリズムダンス)

1 単元設定の理由

《このような育ちが見られるようになってきた生徒に》

- 「バレーボール」単元では、有効な攻撃になる返球をするにはどうしたらいいかを考えた。パスの連携によって攻撃したり、空いているスペースを狙ったり、強く速いボールを返球したりしているチームの様子を映像で紹介することで、返球する場所を考えたり、三段攻撃によって強く速い返球できる喜びを感じてきた生徒。
- 友とともに取り組んでいく中で、映像で紹介されたパスの連携や攻撃方法を目標にして、自分や友の動きについて気づいたことを伝え合うことで、声を出し合って捕球することができた。ボールを落とさず、互いのパスがつながり連携できる楽しさを実感して、友やチームの仲間との伝え合いの大切さを感じてきた生徒。
- パスやサーブについてのフォームが身につけられずミスを繰り返してしまったり、自信がもてなかつたりすることで、思うように友や仲間とかかわれない生徒。

《このような姿のあらわれを期待して支援していくことで》

- ダンスとの出会いの場面で、互いがもつダンスのイメージを伝え合うことで不安を軽減する。先輩の発表したダンスの鑑賞から、感じたことを伝え合う場を設けて笑顔で踊っている姿や、チームで動きを合わせて踊るダンスに対する気づきを全体にとりあげることで、自分たちも仲間と楽しくダンスを踊りたいという思いがもてるようにする。
- 規定ダンスの踊り方や、取り入れたい動きを確かめる場面で、タブレットで撮影した映像や鏡に映った姿から互いに気づきを伝え合うことで、姿勢がどうなっているか、細かな体の部分がリズムに合わせて動いているかに注目して動きを確かめられるようにする。
- ダンスのアレンジが思うようにいかない生徒や班には、曲のメロディを分解してリズムの拍をとりながら互いにアイデアを出すことを促したり、いくつかの動きを紹介して試すようにすることで、動きのアイデアを互いに伝え合えるようにする。

《単元の学びを通してこのような姿を期待する》

- リズムの拍に体の動きを合わせて全身で動くことの楽しさや、その動きをリズムに合わせて表現するダンスの世界にのめりこむ楽しさを味わい、滑らかに体を動かして踊る姿。
- 踊りを通して友とかかわりながら、互いの動きについて気づきを伝え合うことで自分の動きがリズムに合ったり、仲間の動きに合ったりしていくことを実感して、動きに強さや大きさやメリハリをつけて自信をもって踊りを表現する姿。

2 単元の目標 (ア:運動や健康・安全への関心・意欲・態度 イ:運動や健康・安全への思考・判断 ウ:運動の技能 エ:運動や健康・安全についての知識・理解)

- ア:仲間とかかわり合いながら互いの動きの良さを認め合い、ダンスの学習に自分から積極的に取り組むことができる。
- イ:班の仲間と動き方を選んだり、動きを考えたり、動きに変化をつけたりして動きを工夫できる。
- ウ:拍に合った動きで踊ったり、リズムにノって仲間と動きや調子を合わせたり、互いの動きをずらしたりしながら体の各部分を全体的に使って踊ることができる。
- エ:リズムにノって、全身で踊るための体の各部の動かし方や動きの変化のさせ方を理解できる。

3 単元の展開

過程	学習活動	生徒の姿や意識	問 い	教師の支援	評 価	時 間	
出 会 う	ダンスのイメージを合みよう。	リズムにノッて体を動かすのはかっこよさそうだな。	今までにやったことがないし、リズムに合わせて体を動かすのは難しそう。	人前で踊るのは恥ずかしいし、ダンスで体を動かすことがうまくできるか心配だな。	ダンスについてのイメージを伝え合う場を設けて、マイナスイメージにも注目することで、不安を感じていることが軽減できるようにする。	ダンスの楽しさを積極的に味わおうとする意欲をもてたか。(ア)	1
	先輩ダンス発表映像を見た後、気持ちを伝えよう。	班でリズムにノッて踊っていて、かっこよかった。	班ごとの工夫した動きを上手に合わせて踊っていた。	みんな笑顔で、すごく楽しそうに踊っていた。	先輩のダンス映像を見て、感じたことを伝え合う場を設けて笑顔で踊っている姿や、班の独特な動きに対する気づきを全体にとりあげることによって、自分たちも仲間と楽しくダンスを踊りたいという思いがもてるようにする。		
打 ち 込 む	自分たちも班の仲間と楽しくダンスを踊ってみたい。	ぼくたちもリズムにノッて仲間と楽しくダンスをしてみたいな。	楽しくできそうな気がして、リズムにノッて踊ってみたい。				
	班でリズムに合わせて規定のダンスを踊ってみよう。	どのフレーズもいくつかの基本的な動きを繰り返していけばいいんだ。	カウントを数えながら踊る動きが確かめられそう。	サビのところの動きが、リズムに合わなくなっちゃって難しいな。	映像に合わせてながら、教師が規定ダンスの示範を示すことで、動きを確かめながら仲間と同じ動きでダンスができるようにする。	体の各部のリズムに合わせた動かし方が分かったか。(エ)	2
		動き方が分かって、慣れてきたら、もっと動きを大きくしたり変えたりしたくなってきた。	繰り返すリズムのところで、自分たちが考えた他の動きを取り入れてみたい。	動き方がほとんど覚えられたから、きょうきよると仲間の動き方を見なくても踊れるよ。	8拍間のリズムをカウントしながら動きを確認していくように促すことで、リズムの拍に合わせた動きができるようにする。	みんなで動きや調子を合わせて踊ることができたか。(ウ)	3
		みんながリズムにノッて踊る楽しいダンスを考えたい。					4
味 わ う	班で規定のダンスの動きをアレンジして、オリジナルダンスをつくって踊ってみよう。	Aメロのボックスステップの腕の動きを加えていくとさらに動きが大きくなっていいね。	サビの2回目は、ステップの後にみんなで一緒に合わせてジャンプしてみたらどうかな。	Aメロのステップでどうしても足が反対になっちゃうんだけど、どうしたら間違えずにできるかな。	動きを変化させているような生徒の様子をよびよせて発表するように促し、全体に紹介していくことで、班の仲間と動きをアレンジしていかれるようにする。	班の仲間と動き方を選んだり、動きを見つけたり、動きに変化をつけたりして動きを工夫できる。(イ)	5
		腕のダイナミックな動きで、踊りに迫力が出てきたように見えるよ。Bメロのステップにも腕をつけてみよう。	ジャンプをしたり、体の浮き沈みの動きも使って見たら、動きに高さができて踊りがかっこよくなったみたいだね。	仲間がステップの最後の足を軽くついてから同じ足を出すように教えてくれたら、間違えずにできるよになったよ。	動きをアレンジしていく場面で、班の学習形態だからこそできる隊形移動や、左右対称、前後対称の動き等紹介することで、様々な表現で班のオリジナルダンスをつくろうとする。		6
		腕の挙げ方も、右側にいる人と左側にいる人で反対に挙げてみたらもっと動きが変化して、班の個性が出るね。	前列と後列で動きをずらして交互に踊って見たら、班の工夫が見えて面白いダンスになりそうだな。	Aメロのボックスステップでみんなが移動して集まったり離れたりしてみたら動きが広がって楽しいダンスになりそうだ。		リズムにノった動きで踊ったり、動きや調子を合わせて踊ることができたか。(ウ)	7 (本時)
		リズムにノッて踊る気持ちよさを発表してみたい。					8
	ダンスの発表会を開いて、みんなのダンスを見合おう。	曲に合わせて、リズムにノッて体を動かすことって気持ちがいいなあ。みんなでいろいろなアイデアを出し合いながら動きをつくったり、互いの動きを見合いながら気づきを伝え合ったりして、動きができ上がってくるとすごく楽しい。最後に自分たち班の完成したダンスを発表した時、みんながリズムにノッて楽しく踊れたから、大きな達成感を味わうことができた。		発表会を開催し、各班のダンスの工夫や動きの合わせ方のよさを認め合うように促すことで、班オリジナルのダンスが完成した喜びやリズムにノッて踊る楽しさを味わうことができるようになる	ダンスの楽しさを味わうことができたか。(ア)	9	

4 本時案

(1) ねらい

規定のダンスを見栄えよく変化のあるダンスにしようとして班ごとにアレンジしてきた生徒が、他の班と「アピールマッチ」をする場面で、タブレットに撮影した映像を見ながら、動きがそろっているか、アレンジが工夫されているかを互いに伝え合うことを通して、班のダンスが変化したことを実感し、発表会に向けてさらに仲間どうしの動きや息の合ったダンスへの期待がもてる。

(2) 展 開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識(◎)	支援(・)と評価()	時間
導入	1 前時を振り返り生徒ひとりひとりの願いや各班の願いを確かめる。 【全体】	◎アレンジメニューから、ステップした時に腕の動きを取り入れてみたいです。前回、腕の動きを加えてみたら踊りが大きくなって、迫力のあるダンスができました。 ◎1番と2番のメロディが繰り返されているので、踊り方で変化をつけてみたい。2番では、○○さんが考えてくれた動きを取り入れてみたい。 ◎前回、その場でステップしていたところを、ステップしながら全員一緒に移動をする○○さんのアイデアを試してみたら踊りが大きくなって面白くなりました。 ◎動きがどんどん工夫されてきたけれど、全員の動きがそろっているかどうかは分からないから撮影をして確かめてみたい。	・音楽をかけて、アイソレーションや基本の動きでリズムをとって準備運動をすることで、心も体もリラックスしてほぐれ、ダンスの雰囲気をつくるようにする。 ・生徒が、アレンジした動きを実映像を使って全体に紹介するように促すことで、紹介された動きをきっかけにして班のダンスをさらにアレンジする。	10
学習課題：動きをそろえアレンジを加えたオリジナルダンスを踊ってみよう。				
展開	2 互いのアイデアを伝え合い、班のダンスをアレンジして、踊って試してみる。 【班】	◎Aメロのボックスステップで、腕の動きを取り入れて変化させてみようと思うんだけどどうかな。 ◎2番のサビは、ランニングステップの後にみんなと一緒にジャンプしたらもっとカッコよくなる気がするよ。 ◎ステップで移動してみよう。鏡を見ながら一緒にやってみよう。私の動きを真似してやってみて。リズムに合わせて試してみよう。 ◎難しいなあ。慌てないで、ゆっくりやってみよう。 ◎リズムに合わせて動きながら、せーの、1・2・3・4でジャンプを合わせてみようよ。 ◎みんな覚えてきたようだから、今度は、みんなと一緒に曲に合わせて、リズムを確かめながら動いてみよう。	・前時までの工夫を確認してから班ごとに取り組むように促すことで、自分や班の本時の工夫したい場面を明確にして活動できるようにする。 ・巡視支援をしながら、ダンスの動きが単調なものにならないように、全身を使って動いたり、動きに変化をもたせたり、動きのメリハリをつけたりするように声がけしたり、場面に応じて動きの様子を教師がタブレットを使って撮影して仲間に気づきを伝えるように促すことで、動きのズレを確かめたり、より工夫が加えられたものにしたりする。	32
班どうしでアレンジした成果を踊って確かめてみよう。				
		◎腕の動きを入れたら踊りが大きくダイナミックになって楽しくなってきた。 ◎2番のサビは、1番とは全然違う動きになって、すごく班オリジナルの感じがする。 ◎ステップで移動する動き方をみんなでお互いに教えたから、みんなが踊れるようになったね。 ◎動きに工夫がされていてすごくよかったよ。でも、○○君の動きがちよっとズレているところがあったから、この映像で確認してみよう。	・2つの班ごとに「アピールマッチ」をして踊りを披露するように促し、見ている班のひとりが踊っている班のダンスをタブレットで撮影して、映像を見ながら動きがそろっているか、アレンジした部分が滑らかに踊れているかを相手に伝えるように促すことで、班のダンスの改善点を確認できるようにする。	

展 開		<p>◎画像を見てみたら、確かに動きがそろっていないところがあるから、そこがみんなでそろえられるように練習をしよう。</p> <p>◎この映像で見ると、同じ方向に動くだけでなく、左右で広がったり、集まったり離れたりする動きの方向も取り入れられそうだから、移動の方向について動きを試してみよう。うまくいったらダンスに取り入れてみようよ。</p>	<p>班の仲間と動き方を選んだり、動きに変化をつけたりしながら、動きをそろえて全員が踊ることができていたかを、アピールマッチの様子や、撮影した映像の気づきを伝え合う内容から評価する。</p>	
終 末	<p>3 学習カードをまとめ、本時の学習を振り返る。 【個人・全体】</p>	<p>◎○○君が出した腕の動きをつけ加えるアイデアで、ダンスの動きが大きくなって、カッコよくなった。リズムにノって楽しく踊れるようになってきた。他の動きも工夫したい。</p> <p>◎新しい動きをつけ加えたら、動きのパターンが単調じゃなくなって、ダンスが班オリジナルになってきた。もっとこの班にしかできないダンスになっていくと楽しめそう。</p> <p>◎アレンジした動き方をみんなが分かって、動きをそろえて踊ると、ピタッと決まった時にすごく気持ちよくて 楽しかった。</p>	<p>・「アレンジによってどんなダンスになったかを、班で振り返ってみよう」と発問することで、本時の工夫や気づきのよさを発表できるようにする。</p> <p>・映像からの友の気づきや各班の気づきを問い返すことや、映像で様子を紹介することで、互いに気づきを伝え合うことのよさや、その気づきからさらにダンスが良くなっていくことをみんなで共有できるようにする。</p>	8

(3) 実証の観点

- ①タブレットで撮影した映像を互いに見て、仲間の動きが合っているかを確認したり、アレンジした動きを確認したりしたことは、より具体的なアドバイスを伝え合うことや、友との関わり合いに有効であったか。
- ②アレンジメニューから、上半身の動きや集団ダンスならではの隊形移動や隊形変化について、映像をまじえて紹介したことは、班オリジナルの変化のあるダンスをつくらうとする意欲づけや、踊ることの楽しさをふくらめることにつながったか。

(4) 教材研究 [素材の教材化]

素材	素材の価値	教師の支援	生徒の意識や姿
<ul style="list-style-type: none"> 3年生の発表会でのダンス映像 	<ul style="list-style-type: none"> 曲のリズムにノッて踊ることや、仲間と動きを合わせて踊ることは楽しいというイメージがもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ダンスを見て感じたことを伝え合うように促すことで、ダンスに対して不安な思いをもっていた生徒が、踊ることの楽しさを感じてダンスへの期待感がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが笑顔で楽しそうに踊っていたよ。 リズムにノッて堂々とした姿で踊っていてかっこよかったね。 チームで動きが合っていてすごいなあと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ダンス曲「Happiness」 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちに人気のある嵐の曲で、なじみ深くややゆっくりなポップスである。 テンポは約120のほどよい早さであり、拍子がとりやすい。ビートが分かりやすく、2×8のリズムがつかみやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 8呼間のリズムを基本として、互いのアイデアを出し合い、試しながらダンスを創作していくように促すことで、リズムに動きが合うかを確認しながらダンスの動きをアレンジできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> フレーズごとに分担してアレンジしてみよう。 この間奏の部分は、リズムをとりながら隊形移動をしてみよう。
<ul style="list-style-type: none"> 規定のダンス 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に身につけたいダンスの基本的なステップ（サイドステップ・グレイプバイン・Vステップ等）や動き（ターン・フロア）で構成された規定のダンスを全員が共修できるように教師が提示することで、規定ダンスをベースにして自由な発想でアレンジができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が示範を示してダンスを提示することで、動きを仲間と確かめながら規定ダンスを覚えて踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きを覚えてこの班だけの動きを決めたいね。 他の班にはないこの班だけの動きを取り入れてダンスをつくってみよう。
<ul style="list-style-type: none"> タブレット 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか動きが身につかない生徒の姿を撮影して見せたり、班の踊っている様子を撮影して仲間の動きが合っているかどうかを確認したり、アレンジする前とした後の様子について映像を使って互いに確かめ合うように教師が促すことで、個人や仲間のダンスをより合わせたり、修正したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が撮影する観点を伝えたり、映像の着眼点を示したりすることで、具体的な姿や動作から改善点や修正点を見つけたら、個人や仲間のダンスのできばえを確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> どうしてもリズムにノッて動けない所や動きがぎこちなくなる所があるんだけど、撮ってみてくれる。 この部分の動きが合っていないね。もっとみんなの腕を上げる高さをそろえてみようよ。 ここはアレンジする前よりすごく工夫された動きになってよかったね。でも、次の所は、違う動きの方がよさそうだね。
<ul style="list-style-type: none"> 全身鏡 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の全身を映すことができるので、自分の動きや班の仲間どうしの動き方を、鏡に映った姿から確かめたり、自分の動きや姿勢を細かな部分まで確かめたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 規定ダンスの動きや取り入れたい動きを確かめる場面で、鏡に映った姿から確認し合うように促すことで、細かな体の部分の動きに焦点化して動きを確かめられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鏡で確かめると、互いの動きが分かるね。 この動きがよく分からなくて、鏡に映ってるように肩と腕と一緒に動いちゃうんだけど、どんなふうに踊るのか、教えてくれる。
<ul style="list-style-type: none"> ダンス発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で互いの班の成果を見合う場をもち、ダンスを創り上げる楽しさや、他の班のダンスを見る楽しさを味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 班がアレンジしたダンスの工夫や動きの合わせ方のよさを認め合うように促すことで、班オリジナルのダンスが完成した喜びやリズムにノッて踊る楽しさを味わうことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> あの班は、みんながすごくノリノリで楽しそうだった。 最後に自分たちが納得できる一番いいダンスが、リズムにノッて踊れてよかったね。